

みだい

発行日 平成30年1月

発行所 社会福祉法人 山梨県手をつなぐ親の会

みだい寮

山梨県韮崎市旭町上條南割3561-1

TEL 055-285-4292 Fax 055-285-4293

<http://y-tewotsunagu.or.jp/midai/>

発行者 施設長 小林正博



「新しい年を迎えて」

理事長 木村 定則



新年あけましておめでとうございます。

皆さまには御健勝に良い初春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

の御支援、御協力をいただきましてありがとうございます。

平成二十八年四月より施行された「障害者差別解消法」や「山梨県障害者幸住条令」も着実にその成果をあげております。障害のある人もない人も互いにその人らしさを認め合いながら生きる社会の構築にがんばりたいと思います。

みだい寮の歴史を振り返りますと「山梨県手をつなぐ育成会」は障害者支援活動を積極的に展開し、昭和五十三年の社会福祉法人格取得とともに「県立梨の実寮」の受託運営と言う実践を始めました。更に親の想いと結集して、昭和五十六年に更生施設建設基金の募金活動をスタートさせ、自ら設置経営する「みだい寮」を昭和六十二年八月に開設しました。

以来三十年を経過しました。この間幾多の困難な局面に遭遇するなか職員、ご家族の皆様共々努力を重ね、関係機関のお力添えもあり利用者の処遇向上は勿論、高齢化の進む中、訓練棟の建設、みだい寮東棟の増設を行ない今日があります。

最近は制度の改革により入所施設及び日中活動の場として生活介護支援があります。地域に開かれた施設として、各種行事にも参加しております。

利用者の処遇改善は勿論ですが、平常生活以外にも利用者のおたのしみの旅行があつたり、毎年行われている県主催の障害者文化展にも多数出展されております。昨年も山交百貨店で催された第二十回障害者文化展に出展し、一名の入選者があつたなど活躍しております。

利用者の皆様の努力に拍手を送り、職員の皆様の御支援に心から感謝しております。

今年も良い一年になるよう皆様と頑張って行きたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

新年の御挨拶



家族会 会長 長田 寛

あけましておめでとうございます。

平成三十年が始まりました。今年が今までにも増して良い年でありますよう、ご心からお祈り申し上げます。

平成もすでに三十年になりました。

我々、昭和に生を受けた人間には、平成という年号はまだ鮮度を保つております。しかし、鬼が笑う来年は三十一年になります。やがて平成も過去の彼方へと、そうして平成という言葉は昔という言葉にすっかり馴染み、歴史になつていきましょう。どうしてこんなに急いで月日は去つてゆくのでしょうか。私の年齢もまた、ためらうことなく、順調に老いを重ねております。

私の娘は、みだい寮に入所以来、手厚いお世話をいただき、幸福に暮らしております。しかし、寄る年波のせいもあり、手足の機能障害は静かに進行しております。それを止める事など望むべくありません。しかし遅らせる事はできるはずです。それがたった一日であつたとしても、私の力で出来るものならと、悲しい親心のままに、週に三日のペースで既に十年以上みだい寮に通つております。車椅子に座つて固まつた娘の体を伸ばしたり、重い足を運ばせて歩行訓練等を行つています。

ところが、ところがです。最近は障害のある娘の機能訓練もされることながら、己の足の運びの方が覚束無いのです。もとより運動嫌いの私故、足の筋力の衰えの早さには目に余るものがあります。気が付いた時には、既に遅しの感があり、老化の速度の早い事、このような有様で娘のためにどれだけ役にたつかと問うと、自分の肉体の老化を疎ましく、忌わしいとさえ思う昨今であります。叱咤激励して、娘のリハビリテーションをしていたのに、今は自分に向けて同じことをしております。その口惜しさ、その無念さ、しかし、だからと言つて悔恨の情だけを募らせてはいるわけにもいきません。これからは親子共々に再びの回復を願いつつ励んでゆきたいと思います。

どうぞ、みだい寮家族会の皆様、関係者の皆様、人口の減少する日々において、障害の有無に係わらず、授かった命を大切にそして元気に全うしようではありませんか。

「ひとりひとりの個性光る作品作り」

支援員 沢登 祐樹

みだい寮では毎年、利用者さんひとりひとりが丹精込めて作りあげた作品を山梨県障害者文化展に出品しています。今年度で二十回目を迎えた山梨県障害者文化展は、主催に山梨県、主管に社会福祉法人、山梨県障害者福祉協会として開催されています。開催趣旨としては、障害を持つ人達の日頃の芸術文化活動の成果を示す作品や、趣味や技術を活かした作品、リハビリテーション活動の中で作成した作品を展示することにより、県民の障害と障害者福祉に対する理解を深め、障害を持つ人が障害を克服し、自立と社会参加への意欲を高める事を目的としています。

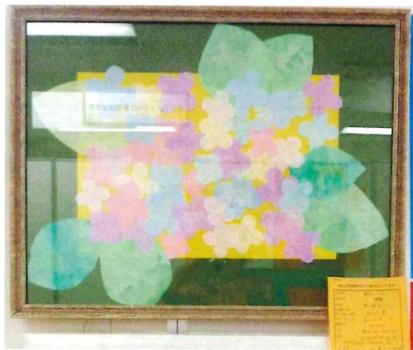
今年度は山交百貨店にて、八月三十一日から九月四日までの五日間開催され、障害者施設や高齢者施設をはじめ養護学校、病院、市の福祉事務所等、総勢約七十以上の事業所が作品の出品を行つており、会場は素晴らしい作品の数々で埋め尽くされました。

みだい寮からは十七名の利用者が作品作りを行い、十九個の作品を出品しました。出品種目としては、個人作品で、文芸、絵画、書道。複数人で共同制作するグループ作品では絵画、手芸といった種目で出品を行いました。個人作品では、書道で、男性利用者さんが書いた「祭り」という作品が入選を果たしました。とても力強く、躍動感溢れる字体で素晴らしい作品でした。グループ作品では、絵画で「あじさい」の貼り絵を作りました。

貼り絵の材料には、障子紙を使用し、障子紙を水に絵の具を溶いた液体に浸しながら色づけを行い、障子紙が乾いたところで、紙をあじさいの形に切り取り、画用紙に貼りつけました。これら一連の作業は職員協力のもと、全て利用者さんに行つてもらいました。障子紙に染み込んだ絵の具の色合いは淡く、色とりどりで、とても綺麗なあじさいが額一杯に咲き誇っていました。利用者さん皆で力を合わせ、協力しながら作品作りを行つている時の一体感は素晴らしく、完成した絵を眺めながら、利用者さん皆が口を揃えて発言した、「綺麗なあじさいだね」という言葉は、達成感で満ち溢れているように感じました。この他にも紹介しきれないほど素晴らしい作品がたくさん完成し、出品を行いました。

私は今年度文化展係りとして、利用者さんの作品作りのお手伝いをさせていただきました。そこで強く感じた事は、利用者さんひとりひとりの作品には「ひとりひとりの個性」があるという事です。想いや考えを文章で表現できる人、作業一つ一つに対してもじっくり時間をかけ、まじ

めに一生懸命に取り組む事ができる人、絵の色合いや形で自分の感情を表現できる人、実に様々でした。今回利用者さんとの作品作りに携わせていました中で、新たな角度から発見や学びを得る事ができました。利用者さん「ひとりひとりの個性」を尊重し、利用者さんの意思決定支援に役立てていて思っています。



「ダンス発表について」

支援員 深澤のぞみ

毎年福祉村祭りでは舞台発表があります。今年もまたみだい寮は舞台発表に参加し、ダンスを踊りました。一ヶ月程前から集中的に舞台発表のダンスの練習に取り組み始め、今年度は利用者さんに希望をとり、課題曲をピンクレディーの「U F O」に決めました。講師の先生に振付を依頼し、利用者さんの練習を見ながらダンスの調整をしていきました。振り付けはピンクレディーのダンスを原型にし、難しい振り付けは簡単なものに変え当日前まで繰り返し練習を重ねました。課題曲をピンクレディーにしたことによって利用者の皆さん全員が聞いた事があるという事で練習中口ずさん

ている方や楽しそうに踊っている方が多いように感じられました。この福祉村でのダンス発表というのは、ダンスを公の場で披露・発表する事も大きな目標であると考えますが、もう一つはその場を楽しむという事をも大切な事の一つであると考えます。私は前年度踊った「ヤングマン」の事を思い出しました。「ヤングマン」は長年ダンスの時間に踊つてきた曲であり、振り付けも利用者さんに染みついているものでした。しかし「U F O」は「ヤングマン」より踊った回数は少なく、練習の様子を見ていると中々踊りを覚えるのが難しいようでした。新たな事を覚える為には反復練習や時間が必要に思えました。ただ、前述のようにここでは踊りを覚えるばかりが重要なことではありません。この時間をどれだけ楽しめたのかが大切な事なのです。

福祉村祭り当日は、あいにくの天気によりみだい寮ではダンスの発表メンバーのみ会場に行きました。みだい寮の発表は4番目。その為発表までの空き時間は屋台を回るなどして、各々過ごし、発表時間を持ちました。発表は雨天を考慮して、屋内のステージで行われました。野外のステージよりは小さいものでしたが、その分客席との距離が近く、より一体感を感じる事ができました。それはダンスを踊る利用者さんの前で踊っていた私もよく感じ、皆さんの楽しそうな表情が見て取れました。

ダンス発表を終えた後に、発表に参加した利用者さんに「ダンスを踊つてみてどうでしたか?」という質問をしました。すると「楽しかった。」「また来年も踊りたい!」等の意見を聞く事ができました。私達は、発表の場と聞くとどうしても「より良く」、そして「こうしなければならない」と考えがちになると思います。確かにそのような事も大切な事の一つであると思います。しかし、今回は利用者の様子や意見を聞き、改めて楽しむという事の大切さを私自身感じる事ができました。利用者さんを傍に感じ、相手にとつて何が大切であるのか、日々の支援の中でもこのような「気づき」を大切にしていると思います。



行事ハイライト

7月「七夕」

今年は大きな掲示板に皆で七夕の飾りつけをしました。



9月 「韮崎市在宅者運動会」

この日は天気も良くまさに運動会日和。フライングディスクやパン食い競争などで盛り上がりました。

11月「収穫祭」

落花生とさつまいもを皆で掘って食べました。今年のお芋もおいしかったです。



8月「開所記念式典」

今年度でみだい寮は開所から「30年目」を迎えました。皆でお祝いをしました。



「納涼祭」

雨が心配されましたが、当日は晴れ、盆踊りや屋台、打ち上げ花火を楽しみました。



10月「福祉村祭り」

今年の演目は「UFO」皆で一生懸命練習に取り組み、本番でも上手に踊ることができました。

12月「クリスマス会」

当日はお楽しみ会で盛り上りました。みんな欲しかったプレゼントを貰えたかな??



みだい寮の日常

今年度意欲的に取り組んでいるのは、空いている時間や夕食前に行っている「あいうべ体操」や「ゆるゆる体操」、「歌・ストレッチ」です。発声や歌うことで嚥下機能の低下を予防したり、体操を行うことで体のストレッチ等につなげています。

【旅行A班（静岡方面）】

支援員 小倉 忠恭

旅行A班は静岡県清水方面へ行きました。一日目は三保東海大学水族館へ行きました。大きな水槽の中にいるサメに驚いたり、大きな化石の前で写真を撮つたり、早速お土産を買つたりと各自楽しんでいました。見学後、ホテルに移動しました。ホテルに着くと少し休憩をして、温泉に入りました。露天風呂に入る方もいて温泉を満喫していました。宴会では、海の幸を頂きました。また、皆でカラオケをして楽しい時間を過ごしました。



【B班旅行 長野県方面】

支援員 橋口 愛理

B班の旅行は、利用者二十六名・職員十二名の計三十六名で行つて來ました。一日目は、チロルの森へ行き、二日目は、大王わさび園・ぶどう狩り体験をしてきました。

一日目のチロルの森では、一日ゆっくりと過ごすという事で、それぞれ自由行動をとり、ソフトクリームを食べて過ごす方や、園内を走っているバスに乗つて過ごす方もいました。動物とも触れ合う機会もあり、一緒に写真も撮る事が出来ました。また、アトラクションにもいくつか挑戦し、的当てやゴーカートなどに乗り、各自楽しい時間を過ごしました。

二日目の大王わさび園では、わさびソフトクリームや野沢菜饅頭を食べて過ごしながら、湾内の景色を見ました。二日間を通して利用者さん各々旅行を楽しんでいました。寮では見られない利用者さんの表情をたくさん見ることができました。



【C班旅行 河口湖方面】

支援員 小林 和泉

十月も後半、だんだん寒くなつてくる季節です。今年の十月二十六日はとても穏やかで良い天気に恵まれました。C班日帰り旅行の始まりです。

利用者六名・職員五名、公用車を使っての河口湖方面への旅です。車の中では、皆さん思い思いに過ごし、ドライブが大好きな利用者さんは笑顔が見られます。今回初めて旅行に参加するNさんは、昼食場所が楽しみなのか「レストラン！レストラン！」と話をされていました。一時間程して昼食場所『富士天ぶらいた』に到着しました。テーブル席に案内され、いつも通り会料理に揚げたての天ぷらをいただき、皆さん美味しそうに食べていました。その後、十三時半の予約をしていた『河口湖猿まわし劇場』まで少し時間があつたので、途中の『ハナテラス』お土産屋へ寄り、暫く見て歩きました。そして、『河口湖猿まわし劇場』へ到着。受付を済ませ、会場に入る可愛い猿の演技が始まりました。素晴らしい演技と愛らしい猿の姿に、利用者の皆さんも職員も自然と笑顔になりました。公演後、出口で先程演技をした猿を囲んでの記念撮影。今日一番の良い顔で皆さん写っています。

今回の旅行で「今日一日楽しかった。また行きたい。」という感想が聞かれました。



【旅行D班 東京方面】

支援員 渡辺 光

旅行のD班は少人数旅行で、利用者六名・職員二名の計八名で行つて來ました。東京ドームでプロ野球のナイター観戦をメインに、東京観光をしてきました。

一日目は、東京駅周辺より、ほどバスに乗りました。東京の名所を見て回り、皆さん興味津々で風景を眺めながら、ガイドさんの案内に耳を傾けていました。はとバス乗車後、一旦ホテルへ行き、野球の応援の支度をして東京ドームへ行きました。プロ野球の巨人対ヤクルトの試合を観戦しました。皆さん、ビールを飲んだり食べ物を食べながら応援し、楽しんでいる様子でした。

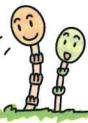
二日目は、野球殿堂博物館へ行きました。皆さん、自分の好きなチームや選手の展示物を観戦していました。D班は、少人数の旅行、又、公用車での旅行だった為、見学場所や見学時間など、利用者さんの希望に合わせ変更する事が出来、皆さん満足して頂けたようでした。





平成30年

1月～6月の行事予定



1月	利用者新年会
2月	節分
3月	利用者お楽しみ会
4月	お花見
5月	障害者スポーツ大会
6月	支援協会交流スポーツ大会

平成29年 7月～12月までの
苦情解決



社会福祉法人山梨県手をつなぐ親の会における
「苦情解決の仕組み」による苦情解決について報
告致します。

今回の報告は平成29年7月～12月までの間
のものです。



苦情は0件でした。

みだい第60号

編集後記

新年明けましておめでとうございます。

昨年も色々な行事がありましたが、その中でも8月の開所記念式典では、みだい寮開所30周年のお祝いをしました。この日を迎えたのも、多くの皆様の支えがあつてのものと存じます。

入所者の中には開所当時から在籍されている方も居て、30年がたった今、心身機能も大きく変化しています。お一人お一人が安心して日々を過ごせるよう、またそれぞれに適した支援に繋がるよう職員一同精進して参ります。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

編集後記 望月・深澤